

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	第1回吉川市産業振興会議
開 催 日 時	令和3年6月29日(火) 午前10時00分から 午後12時10分まで
開 催 場 所	吉川市役所202会議室
出席委員(者)氏名	【産業振興会議委員】 太田 久年、田口 政博、鈴木 努、生田 貴之、近藤 旭、 柏瀬 浩史、飯箸 幸弘、石井 和也、高木 淳、池田 憲一、 西山 亜弥、妹尾 建二、小林 千重(産業振興部長)
欠席委員(者)氏名	吉川 真由
担当課職員職氏名	産業振興部 商工課 課長 染谷 憲市 商工課 消費労政係長 會田 奈穂子 商工課 商工観光係長 東原 拓哉
会議次第と会議の 公開又は非公開の 別	○第1回吉川市産業振興会議 1. 開会 2. 委員の委嘱等について 3. 市長あいさつ 4. 会長あいさつ 5. 委員および事務局の紹介 6. 議題 (1) 産業振興計画の改定について 7. 閉会 [公開・非公開] 公開
非 公 開 の 理 由 (会議を非公開にした場合)	—
傍 聴 者 の 数	4人
会 議 資 料 の 名 称	1. 次第 2. 資料1: 吉川市産業振興計画改定方針 3. 資料2: 吉川市の現状及び社会動向 4. 資料3: 具体的事情記載の2枚綴り 5. 吉川市産業振興計画改定案 6. 体系図
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	石井 和也、高木 淳
その他の必要事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
事務局	<p>1. 開会</p> <p>2. 委員の委嘱等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西山園芸 西山 亜弥 氏</li> <li>・ライトアーム株式会社 妹尾 建二 氏</li> <li>・特定非営利活動法人To Going Concern for Women 吉川 真由 氏</li> <li>・吉川市 産業振興部部長 小林 千重</li> </ul> <p>新たに委嘱された委員より自己紹介</p>
市長	<p>3. 市長あいさつ</p> <p>吉川市の産業振興計画では、一つ産業が発展するだけでなく、そこに関わる全ての方が幸福になれることを目指していく考えであり、この考えを新たな委員の方も含め共通の認識として進めていただきたい。また、新たな発想や先進的な取組みなどにより市民の幸せにどう繋がっていくか様々な理想や夢を語っていただきたい。頂いた意見を元に庁内で精査し、計画に反映していきたいと考えているのでよろしくお願いします。</p>
会長	<p>4. 会長あいさつ</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響もあり、テレワークによる会議が増えている。このような対面形式の会議は久しぶりとなり少し緊張しているが、中身の濃い議論をしていきたいので、忌憚のない意見をよろしくお願いします。</p>
事務局	<p>5. 委員および事務局の紹介</p> <p>事務局より各委員及び事務局の紹介を行った。</p>
会長	<p>6. 議題(公開)</p> <p>太田会長より、会議録確認指定者として石井委員、高木委員を指名。</p> <p>(兩名、了承)</p>
事務局	<p>(1) 産業振興計画の改定について</p> <p>(資料1、資料2、資料3を用いて事務局から説明)</p> <p><b>【意見・質疑等】</b></p>
委員	<p>事前に資料を配布いただいたので、すべてに目を通すことができた。この中で、3頁のイメージ図については、勤労者、事業者、市民の配置がそれぞれの業種のみと誤解を与える可能性があるため、全分野に関わるように再考したほうが良いと感じる。</p>
市長	<p>行政という部分も抜けている。</p>

<p>事務局 委員</p>	<p>ご意見を踏まえ修正する。 今回追加されたSDGsについては、ロゴマークを入れることで、各施策とSDGsの関連性が明確となり良いと感じる。一方で、Society5.0については、IOTなどの先進的な技術という視点と考えるが、どの部分に追加されているのか確認したい。また、多様な働き方をまとめ整理したとのことだが、昨今のジェンダー、性的少数者といった観点を市としてどう考え、取り組んでいくかなど伺いたい。</p>
<p>会長 事務局</p>	<p>それでは、まずはSociety5.0について事務局の説明を求める。 Society5.0は、狩猟、農耕、製造社会、現在の情報社会が4.0で、次の社会とされているものである。主に、先ほど委員からも説明頂いたように、IOT、ドローンなど新たな技術を活用した次世代の社会を表している。国、県をはじめ、自治体の将来を見据えたまちづくりの計画の中に、新たな技術の活用として盛り込まれている部分となる。市では現在、まちづくりの計画の一つである総合戦略に盛り込んでいる。なお、本計画の改定素案では、10頁の一覧の中で、施策に記載しているものの、まだ、施策内容には盛り込めておらず、皆様のご意見を踏まえ、文言として盛り込んでいければと考えている。また、用語についてわかりにくい部分となるので、注釈を入れながらわかりやすく整理していきたいと考えており、委員の皆様にご意見を伺いたい。</p>
<p>委員</p>	<p>まずは、事前にこれだけの資料を配布頂いたことに感謝する。市政と民間の経営は大きく異なると思うが、計画を実行していくという点は同様であると考えている。実現可能な計画か、どの程度のリソースを割いて、どの程度の予算があり、本計画を実現していくのかが見えなかったのを確認したい。また、経営も同様であるが、自社では、年に一度次期の計画を立て、四半期ベースで予実管理しアクションプランに落とし込み、一週間ベースで、定量的な結果を管理し乖離が生じた際にその原因を追究するなど、PDCAを回していくことで目標の達成に近づけていく形をとっている。施策を見た際には、手段の部分もあるなど、何に繋がっていくのかが分からなかったのを、整理が必要と感じる。素案では、当初の目的が達成できたのか、費用対効果はあったのかが分からなくなってしまうのではないかと感じる。できる限り定量化された目的があつて、そこにKPIを設定し評価すべきと感じる。自社では、達成できなかった指標があれば、それを金脈と呼んでおり、間違いに気付く、原因を追究することで、より精度の高いものになると感じている。ぜひ、そういった観点も含めていただきたい。また、計画の理念にある市民を巻き込むといった点については、特に大切な部分であると考えている。自社では、コロナの影響で</p>

	<p>一時相当な影響を受けながらも、今月及び来月は、創業後、過去最も高い状況となっている。その要因が自社の社員を巻き込んだことと考えている。これまでは、ワンマンでやってきたことを、ワーキンググループ化し、自分ごと化したことで、実現の可能性と帰属意識が高まった状況であった。本計画を考えた際には、7万人を巻き込むということになり、この計画を理解し、何らかの形で参加していくことで愛着の高まりなどが生まれてくると感じる。自身がこのまちになぜ住んだかという、たまたま住みたい家が建ったから。住み続けるのは、家があるからとなり、これまで、市が何をやってきたかなどは知らなかった。他の市民も同様と言えるのではないかと感じる。この計画をどう伝えるかが重要である。</p>
<p>市長</p>	<p>経営という言葉は同じだが、民間と行政では大きく異なり、行政では、決算ベースではなく予算ベースで動いている。数字などの成果が明確にならない部分を担うのが行政だと考えている。予算化するために重要となるのが根拠であり、本計画に記載していくことが根拠となる。計画が幅広の場合に予算化が難しいものも当然あるが、根拠となる計画への記載が無ければそもそもスタートがきれないということとなる。そのため、市の向かう方向性を示し、未来へのキーワードとして記載していきたい。そうした中で、現場の声なども含めて担当課で整理し、10月頃に次年度予算へ計上していくという流れになる。これまでも委員から自分たちは何かをチェックするのかと聞かれたが、産業振興の進捗度はリアルな数字で測ることは難しい。この会議では、夢や先進的な視点となる文言を計画に入れ込み、大きな予算でなくても、スピード感をもって対応していくことが重要と考えている。一番大切なのが、市民が市内産業や振興計画を意識できるかである。Society5.0については、今後どのようにしていくのか予測がつかない状況であるが、それらの文言を入れ込むことで、市民が理解や参加できるきっかけの種を蒔けるかということではないかと感じる。</p>
<p>委員</p>	<p>7万人の市民がいる中で、定量的な指標というのは非常に困難なことと考えている一方で、市民の意識、継続性にとって必要なのは、実感であり、この実感を測る必要があると感じる。巻き込んだ、やってみた、こんなに街が良くなったと実感できる形の何か良い方法はないだろうか。</p>
<p>市長</p>	<p>市の最上位の総合振興計画の中では、幸福実感の向上と掲げているが、これも難しいチャレンジである。これをどうやって数値化していくのかという点は本当に悩んでいて、アンケートを取っても、設問の表現により結果が大きく変わってしまう。産業振興</p>

委員	<p>の中でも市民がどう感じているか、それをどう測れるかアイデアが欲しいところである。</p> <p>自社では、社員の満足度を測っており数値化している。定量的なものや定性的なものもあり、「見える化」している。情報を発信し受け止めるというシンプルなものと感じる。回答者がアンケートにしっかりと向き合うことが大切と感じる。</p>
市長	<p>満足を増やすだけでなく、不満と考える方を減少させていくということも大切と考えている。例えば、市のイベントや企業、特産などの認知がされていない方がだんだんと減っていけば、市民が参加している裏返しとなる。</p>
委員	<p>自社のアンケートでその双方を取っており、良いと悪いの認知を測ることで、会社側ではやれていると感じることも、社員としては、不満であったり認知されていないということもある。何に不満で、何に気付いていないかを測るアンケートは重要と感じている。</p>
市長 事務局	<p>市民意識調査では産業についての設問はあったか。</p> <p>現在の設問は、産業全体としてではなく農業では農産物に関する認知度、商業では店舗の利用に関する部分となっている。</p>
市長	<p>施策に何かこの部分を入れられないか検討していくこととする。指標をどうとっていけるか。アンケートなのか、あるいは他の手法なのか意見を伺いたい。</p>
委員	<p>例えば、小中高生に伺ってみてはどうか。親と一緒に考える時間が良いと感じる。親子で会話して考えていく時間とすることで、子どもがこの部分を認識したら大きな価値になると思う。このまちで生まれ育った子どもに問題意識を持たせるということは大切だと考えている。</p>
市長	<p>良い発想と感じる。指標を取るアンケートとして検討していきたい。Society5.0についてどうか。</p>
委員	<p>正直なところ少し早いと感じている。今はまだ手前の部分では無いかと。文言として、流行りの部分が盛り込まれ、市民との溝が生まれてしまうのではないかと感じている。</p>
市長	<p>今は、施策に先端産業の導入に係る相談支援となっており、Society5.0とは入っていないが、この記載でどうだろうか。</p>
委員 市長	<p>市民が理解できないものになってしまうのではないかと感じている。</p> <p>市が何かをやる際には根拠が必要であり、この部分で読み取れるか重要である。</p>
委員	<p>なぜ、それが必要なのかという部分についてはわかりやすくした方が良いと感じる。</p>
委員	<p>Society5.0という文言の記載については、商工業者はおそらくこの先、必然的に導入していく流れになると思うが、農業分野に</p>

	<p>については、特化した記載の必要性を感じている。予算の関係もあり、あえて少し分野を絞り記載してはどうかと感じているが、農業分野の委員に意見を求めたい。</p>
<p>委員</p>	<p>農業の基盤整備の現状としては、例えば水路などは老朽化した状況になっている。農家は、高齢化もあり現在使用している機械が故障したら、法人への委託等を考えていく流れである。しかし、市内にある農業法人は、なかなか手がまわらない状況となっている。それでは、市外から新たな農業法人を誘致していくことも一つの策とは感じているが、事業者が実際に市の現場を見に来た際には、想像していたものと異なるというのが現状である。ドローンやセンサーの付いた新たな田植え機などの紹介もあるが約1,000万円程度であり、現状では手を出す農家は少ない。</p>
<p>委員</p>	<p>そうすると、現場としては先端の技術を受け入れる状況にないということか。</p>
<p>委員</p>	<p>現状としてはそうであるが、この計画が産業に対する夢のカタログという意味であり、産業振興のベースがここに書かれているということであれば、読み込めることは大切と感じる。</p>
<p>市長</p>	<p>市内でトマトを生産する農家など先進的な技術導入を行っている事業所もいる。委員からも話のあった農業法人の中には、未来への投資を行っていきたいと考えている人も多いと感じている。このような方へ支援する際にも、計画への記載がされていることは重要と感じている。</p>
<p>委員</p>	<p>知り合いの花き農家では、自宅から離れた場所という環境のため、遠隔で生育状況を確認するシステムの導入や、散水システムを自作したと伺った。また、市内の若手の農業者の中には、先端設備導入による効率化などについて検討しているようなので、記載は必要と感じている。</p>
<p>市長</p>	<p>「先端設備の導入」という文言は計画に入れていく方向で整理すること。</p>
<p>委員 会長</p>	<p>農業を中心としたほうが良いと感じる。</p>
<p>市長</p>	<p>農商工を産業と位置付けたので、農業を突出しなくても良いのではないか。ただし、多様性、労働環境とデジタル化など少し広がり過ぎていないかと感じている。例えば、デジタル化と計画に記載されているが、このような対面式の会議を開催しており、現状と異なると感じる。行政の手続きも含め検討すべきではないか。</p>
<p>市長</p>	<p>事務局に確認となるが、この素案をベースに委員にチェック頂き、次回までに整理してほしいということで良いか。</p>
<p>事務局</p>	<p>そのような形で考えている。何かお気づきの点やご意見があればメール等でもいただきたい。</p>
<p>市長</p>	<p>計画の中で、商工会との連携という文言があるが、商工団体な</p>

	<p>ど様々な団体等の連携という形が良いと感じる。また、性的少数者の部分となるが、市では、パートナーシップの導入に向けた検討を現在進めているところである。</p>
委員	<p>それならば、LGBTといった文言が記載されていても良いのではないかと感じている。</p>
部長	<p>検討した部分であり、現行の計画では、女性、高齢者、障がい者と分けて記載されており、そこに新たに追加するか、今回出させていただいたようにまとめる形とするか検討したところである。</p>
市長	<p>「多様な」という言葉で包括し表現しているのが事務局案である。</p>
委員	<p>多様なというまとめ方は良いと感じている。その説明書きとして、女性、高齢者、障がい者等と書かれているが、ここにLGBTと入っても良いのではと感じる。</p>
部長	<p>どこかに文言として入れていくよう検討する。市では、これまで様々な申請書等に性別の記載を求めていたが、現在は必要のない場合は廃止とするほか、啓発にも力を入れている。民間企業等においても、更衣室やトイレ等の配慮が求められていると伺っている。</p>
委員	<p>文言としてはLGBTQとなると思う。</p>
市長	<p>それでは、少し話題を提供したいが、12頁の産業基盤の整備、工業団地の整備という部分で、吉川市は1/3程度が農地であり、土地があるのに開発しないのかと聞かれるが、国が農地以外で使うことを許してくれない。厳しい規制があり、吉川美南駅東口の開発の際も、時間をかけ認めてもらえたところである。そこにも産業ゾーンを造っていて、工場見学等、地元に貢献してくれる企業の誘致を進めている。また、これまでは、次に、東埼玉テクノポリスの拡張を進めていくと考えていたが、拡張部分が農業振興地域の「青地」であり、三輪野江地区の方は「白地」なので、そちらを優先することとなり、昨年テクノポリスと議会に対して、順番が変更になる旨を説明した。三輪野江はご存じのとおり、現在、流山からの新たな橋を建設中であり、この道路はバイパスと繋がり、スマートインターも5年程度でフル化される見込みで、東京方面への往来ができるようになる。高速道路の南側を産業ゾーンとして整備し、北側には、農業パーク的なものや植物工場的なものなど、また、農業法人などの誘致を進め近郊農業の新しい形を示せればと考えている。そうなれば、この計画のSociety5.0などが活かされるのではないかと。</p>
委員	<p>三輪野江の産業ゾーンは、吉川美南駅東口の産業ゾーンと異なりあまり制限をかけない考えか。</p>

市長	誰が整備するのが重要であり、それにより制限は異なる。例えば、吉川美南駅東口は市が整備し、地権者をまとめ税金を投入して実施している。また、今年8月に住所が変わる中央土地区画整理事業の場合は、組合施工で地権者が整備した。吉川美南駅の西口の場合は、大規模企業が入って開発を行い分譲する形などいろいろやり方がある。なお、三輪野江の産業ゾーンの整備については、どのような手法が良いかの検討段階となっている。
委員	Society5.0のような新たな技術の導入は、働き手の必要性が失われてしまう懸念があると感じるがどうなのか。何か誤解を生まないようにしなければならないと感じる。本計画では勤労者の記載もあるので表現の仕方は注意が必要ではないか。
委員	人材の確保という点では、吉川は人口が増えている状況であり、吉川美南駅周辺は増加傾向であることから、問題がないと感じる。一方で、人材確保は全国的に課題であり、外国人の雇用などが増加している。他自治体では、行政側が費用を捻出し、経営者ではなく管理職の若手を対象とした人材育成セミナーを銀行とタイアップし実施しているところもある。Society5.0は人材確保の足りない部分を補うといった考え方で良いのではないか。
市長	市がタイアップできる部分としては、市内に住みながら、こういった企業で働けるという情報を学生などに伝えていくことだと感じる。
委員	何か補助金等での支援はあるのか。
市長	補助金というよりは、企業側が企業の紹介をし、職員がまちを紹介するイメージである。
委員	それだけでは少し足りないと感じる。
委員	先日就職面接会に参加して、ここ最近の市とのコラボについても紹介をさせていただいたところ、吉川市は面白いまちだといった意見を頂いている。
委員	市と連携することでレスポンスや問い合わせ等が増えたということか。
委員	問い合わせの増加や反響があったと感じている。
委員	吉川市には、多くの人に移り住んできているが、マイホームを持つ世代は、教育を一つの視点として考えている。この世代は、未来への希望が特に強い世代であり、教育に力をいれているというイメージが付くだけで、中長期的に見ても人が集まりやすいと感じている。
市長	その部分は少し疑問もある。その場所でサービスを受けたい人を増やすのか、それとも、その場所で何かを実現しようと考えている人を増やすのかで変わってくると感じる。地元愛が真に育まれないのではないか。



委員	<p>まずは人を呼び込み、その集まった子どもたちが市内に残る設計が必要と感じる。都内へのアクセスが良い場所なので、都内で事業を起こして、ここから通うといったことも考えられる。</p>
市長	<p>市民を巻き込むといった視点や子どもへのアンケートなどの実施で、産業振興の一步目になると感じている。改定時の一つのキーワードとして考えていきたい。また、こんなことをしたいという方を呼び込めるように仕掛けていきたいと考えている。</p>
委員	<p>例えば北海道の方は、道内を出たがらないと聞いたことがある。この周辺だと、柏の方は地元が好きとのことであり、働く場所が多いことが一因ではないかと感じるので、そういった部分が重要と感じる。</p>
委員	<p>総合振興計画、総合戦略、都市計画マスタープランとあるが、それぞれどのような計画なのか簡単に説明が欲しい。</p>
市長	<p>総合振興計画とは、まちづくりの最上位の計画で計画期間は10年間である。様々な分野を幅広く記載している計画であり、5年ごとに改定され市の背骨になるものである。次に、総合戦略は、国が地方創生を進めるため、すべての自治体に策定を求めたものであり、市では、子どもの笑顔と幸福実感という2つのテーマを掲げたものである。最後に都市計画マスタープランは、市内の開発や道路整備などを20年規模で描く計画である。これらがないと、開発しようと考えても、根拠となるものがなく、開発できないということになってしまう。まさに、まちづくりの根幹となる部分である。これらの計画がベースとしてあり、そこに基づき個別計画が策定されるというイメージである。</p>
委員	<p>開発ということが出たので市内で考えてみると、市内には、小松川工業団地がある。もともと、あの場所に企業を誘致しておいて、騒音など発生していると言い出て行けというのはおかしいと感じる。どういう風に話をして企業を誘致したのか疑問である。一方でテクノポリスを見てみると、きれいな企業が並んでおり、大きな音や埃もない。おそらく規制が違うと感じるが、どういった工業団地を整備するのかが重要と感じる。新たな工業団地をつくる際には、長期的な視野に立って検討する必要がある。また、計画に『子どもの職場体験学習』とあるが、工業や農業についても、ぜひ、体験させてあげて欲しい。市内の優良な面白い企業を知ってもらい「将来、ここで働きたい」とか、「農業に就職しようかな」など、地元で働き、定住することの魅力を、子供たちに伝えていく必要があると思う。</p>
市長	<p>産業に、子供たちや市民が関わっていくこと、市民参画を意識して計画をつくっていこうと思う。小松川工業地は、かつて、様々な事業者をあの場所に集めた工業地を整備すると線引きを行い、</p>

<p>委員</p>	<p>その後、住宅ができ、事業者と住民との間に摩擦が生じている状況はある。三輪野江の開発については、そのあたりを踏まえていきたい。</p> <p>工専のまわりには工業地域、準工業地域、第二種住専、第一種住専があり、工業地域や準工は建ぺい率と容積率が良く、単価的にも住宅を建てる場合は、安く効率的に多くの住宅の建設が進められ、人が集まり、工業地域・工業専用地域の事業者が移転を余儀なくされている。例えば、都内からこの工業地域に進出してきた企業が、周りの状況により工業地域を追い出されるという現象が起きている。仮に、三輪野江に工業地を造り、そういった事業者の移転を考えていくのであれば、その周りをきちんときちんと整備する、あるいは環境に配慮するなど、距離を確保しておかないと同じ事が起きてしまうのではないかと感じる。テクノポリスは住宅の規制もできていることから住民問題は無いものと感じている。誘致することは良いことだが、そういった将来的な部分をしっかりと考えていく必要がある</p>
<p>委員</p>	<p>計画の事業承継の部分について意見を伺いたい。コロナの状況もあり、3年前とは状況が変わっていると思うが、どう反映させる考えか。</p>
<p>委員</p>	<p>事業承継については、現在は第三者承継よりもM&amp;Aが主流となっている。国も働き方改革を進めており、強い中小企業は良いが、そうでない場合は、M&amp;Aなどで中規模から大規模になるような形に変革をさせようと感じる。ただし、経営能力や特殊な技術などがあり、親族内承継したい事業者もいるので、コミュニケーションを取っていく必要がある。また、経営者側もコロナの影響もあり、お金を借り、後継者に残すことを敬遠している方も多いと感じる。一方で、後継者側は、事業を継承していきたいと思う方が増えていると感じる。このようなことから、事業承継は大きく変革するものと捉えている。</p>
<p>委員</p>	<p>まさにその通りと感じる。M&amp;Aが急速に増加している傾向であり、廃業は会社が一つ無くなるというものなので、M&amp;Aのように、他の企業が価値を見出していく形の方が望ましいのではないかと感じる。あるいは、従業員同士で株を持ち寄って代表者を決め会社を継続させていく方式も注目されている。他の地域では後継者が一流企業に勤め、後継者がいないということは結構多いが、吉川では、どちらかという後継者がいる企業が多く、そのような後継者が、青年部などでこの地域を盛り上げているので、今後この次世代の力がこのまちを支えていくものと感じる。そういった意味では、この計画は大きく読み込めることが重要と感じる。</p>
<p>委員</p>	<p>従業員が株を持ち寄ってという事例はどのくらいあるのか。</p>

委員	最近注目されているもので、まだ事例としては少なく選択肢の一つである。
委員	この計画の中では、市民との一体化というのが盛り込まれているので、事業承継という部分にEBO、つまり従業員も巻き込む形として検討してほしい。事業承継というだけでは、何か経営者だけという形に見えてしまうのではないか。
市長	市内では、あまり、コロナの影響で倒産等を聞かないが、実際には、M&Aのような形の中に隠れているのだろうか。
委員	廃業の方は少しずつ出てきているように感じるが、他の地域と比べると数は少ない。
委員	逆に他の地域の事業者を市内の事業者にもM&Aとして紹介しているケースが増えている。
委員	商工会の中では跡継ぎがないということで悩んでいる事業者や、跡継ぎが優秀すぎて他の企業に就職するなんて話を聞く。
委員	飲食店などの状況はどうか。
委員	市の支援、金融機関の支援により、維持できていると感じる。市内の飲食店の規模により異なるが、廃業にまでは至っていないのではないか。しかし、コロナの融資を受けている場合は、3年後が一つ目安になって来るのではと感じている。それまでに、いかに元の世の中に戻していくのかが使命ではないか。先日開催された「よしかわマルシェ」では、一部制限された中での開催であり、本来の70%程度のもとなっており、少しずつそれらが影響してくるとも感じている。また、先ほどのM&Aについては、自社にも依頼があるなど、着実に増えていると感じている。この計画に掲げられているように、「まちの幸福実感」の一端に関わっているという自負を持っていて、子どもたちを見ていると、すごく吉川に愛着を持っている子が多いと感じ、そういった子を裏切らないように、幸せが感じられ愛着が持てれば、一度転出してもまた戻ってきて、市内の産業振興を担ってくれるものと考えている。そのために、今、僕らが下地を作る、そういったことを繰り返しやっていくものだと感じており、それがこの計画だと考えている。今、次の世代の方が吉川に戻り、後を継ぎ、吉川を盛り上げていこうという機運が高まっているものと感じる。数値化は難しいかもしれないが、幸福の実感ということは少しずつではあるが、出てきているものと感じている。
事務局	本日頂いた意見を整理し計画案の修正を行い、庁内で検討していくこととする。
事務局	(2) その他 キャッシュレス決済キャンペーンの実施について説明。

7. 閉会

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和3年 8月20日

署名委員 高木 淳 (自署)

署名委員 石井 和也 (自署)